

# 避難指示区域におけるリンドウ栽培の実証(1年目)

## (川内村、浪江町、川俣町)

福島県農業総合センター 生産環境部 福島市駐在

事業名 福島県営農再開支援事業  
小事業名 営農再開へ向けた作付実証(県による実証研究)  
研究課題名 既存研究成果を活用したリンドウ栽培の実証  
担当者 野田正浩、鈴木幸雄、根本知明

### I 新技術の解説

#### 1 要旨

避難指示区域において、既存研究成果等を活用した実証栽培を行い、農業者の営農再開に対する不安を払拭するとともに、収益性及び品質の優れた作物生産を実証することで地域の営農再開を進める。

本試験では、現地ほ場(川内村下川内:反転耕、浪江町幾世橋:深耕、川俣町山木屋:表土剥ぎ客土)にリンドウを導入し、除染後農地における生育量確保と、定植 30 日後のジベレリン処理により定植年にリンドウが採花可能となることを実証した。

- (1) 定植 30 日後のジベレリン処理により、除染後農地においても旺盛な生育を示した(図1)。
- (2) リンドウは、通常定植した翌年からの収穫となるが、定植 30 日後のジベレリン処理により、「ふくしまさやか」、「ふくしまかれん」、「ふくしまほのか」は、出荷規格を満たす切り花が得られた(表1、図2)。ただし、茎元や中間部位に曲がりが見られるものもあったことから、フラワーネットによる適切な管理が必要である。
- (3) 栽培管理は、片道 30 分の通い耕作で行ったが、定期的な薬剤散布により、病害虫への対応が可能であった(表2)。
- (4) 定点カメラによる調査の結果、ほ場周辺に野生鳥獣の出現が見られた。リンドウ株自体への被害は無かったが、イノシシによるマルチ踏み破りや、タヌキによるフラワーネットの噛み切りが一部で生じた。リンドウによる営農再開に際しても、電気牧柵等による鳥獣害対策を実施する必要がある(データ省略)。
- (5) 定植年の経費は、116,846 円/a(内訳:種苗費 56,055 円、肥料農薬費 10,584 円、支柱 22,333 円、各種資材 27,874 円)であった。なお、獣害対策として、ほ場周辺に設置した電気牧柵(ソーラー型)は、136,080 円であった。

#### 2 期待される効果

- (1) 避難指示区域において、通い耕作により、営農再開する場合の実践事例として活用できる。
- (2) 除染後の露地ほ場における、花き(リンドウ)導入時の資料となる。
- (3) 除染後ほ場においても、定植年に十分な生育量が確保されたことから、2年目以降の収穫量が期待される。

#### 3 活用上の留意点

- (1) 中通り北部及び浜通り北部中部の現地ほ場において、通い耕作で栽培した結果である。
- (2) 作付け前に必ず土壌分析を実施して施肥を行う。
- (3) 防除は、病害虫の発生状況や気象経過に応じて、適宜実施する。
- (4) 電気牧柵等による鳥獣害対策を実施する。

## Ⅱ 具体的データ等

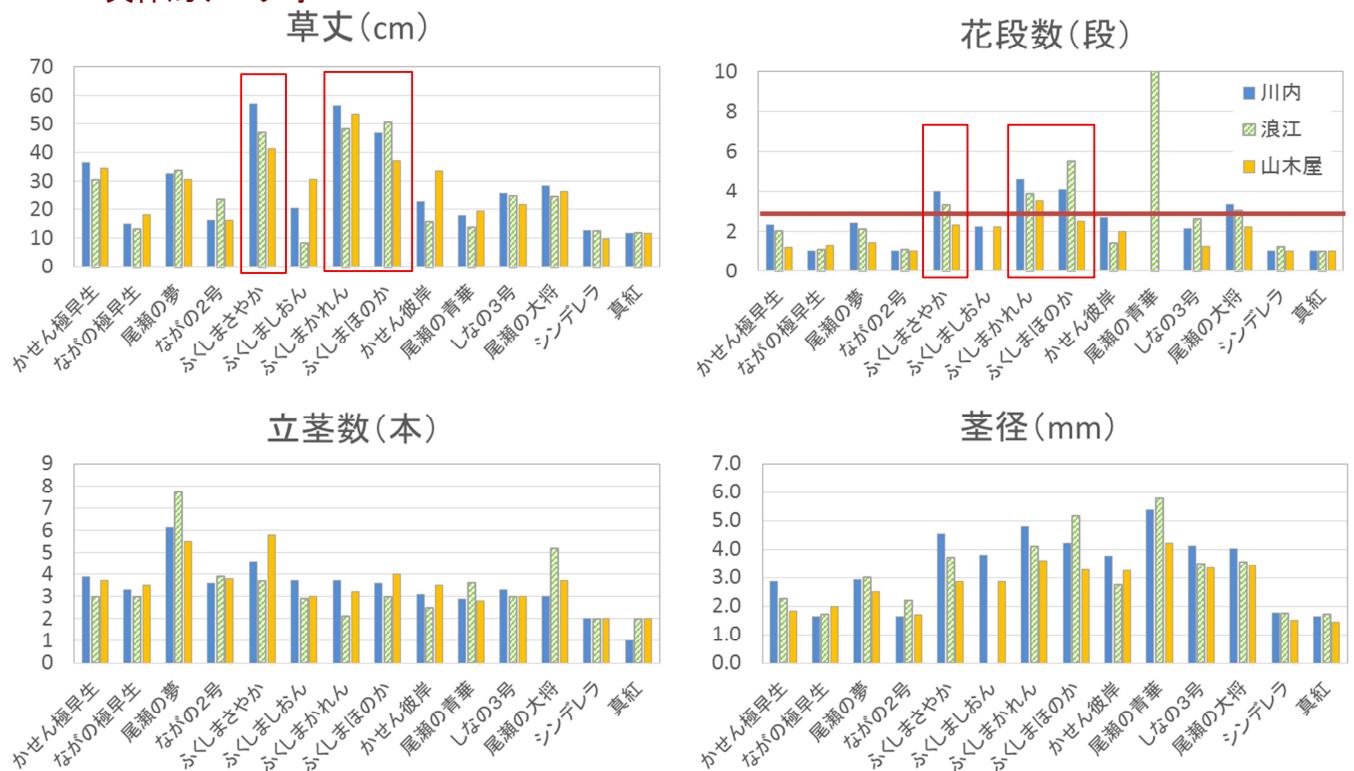


図1 ジベレリン処理区の lindou 定植年生育 (10 月 1~3 日調査)

※シンデレラ、真紅は無処理  
※ながの、しなのは購入苗に  
処理済み

表1 ジベレリン処理区の抽苔率と出荷可能見込み本数 (10 月 1~3 日調査)

品種名	抽苔株率 (%)			出荷見込本数 (本/a)			うち秀品率 (%)		
	川内	浪江	山木屋	川内	浪江	山木屋	川内	浪江	山木屋
かせん極早生	100	100	99	0	0	0	—	—	—
ながの極早生	100	100	100	0	0	0	—	—	—
ながの2号	100	100	98	0	0	0	—	—	—
尾瀬の夢	100	79	100	38	51	0	60	44	—
ふくしまさやか	100	90	100	102	197	49	27	48	5
ふくしましおん	64	0	74	0	0	145	—	—	71
ふくしまかれん	100	60	100	198	226	464	18	45	17
ふくしまほのか	89	60	100	200	323	97	65	77	67
かせん彼岸	90	39	97	12	6	45	67	100	33
しなの3号	81	52	71	12	0	0	—	—	—
尾瀬の大将	97	98	98	0	0	0	—	—	—
尾瀬の青華	35	19	64	0	11	70	—	100	70

※定植本数: 600 株/a ※出荷規格は 50cm・3段以上、秀品率は曲がりの有無で判断

表2 現地ほ場3カ所における病害虫の発生状況

病害虫名		被害程度
病害	葉枯病	無
虫害	アブラムシ類	無~少
	ネキリムシ	無~少
	ヨトウムシ類	少
	オオタバコガ	無~少
	リンドウホソハマキ	無

※達観調査による結果 ※薬剤散布は、概ね 10 日に一度の間隔で実施



図2 「ふくしまほのか」の切花  
(10 月 7 日、草丈約 60cm、浪江町)

## Ⅲ その他

- 執筆者 野田正浩
- 実施期間 平成 26 年度
- 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

- (1)「定植 30 日後ジベレリン処理によるリンドウの株養成技術」、平成 20 年度、普及に移しうる成果
- (2)「リンドウ中晩生品種の定植年採花技術」、平成 24 年度、参考となる成果